

<2021年3月期 第1四半期決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2020年7月31日(金) 18:00~18:50

出席者 : CFO 岩本 秀之

CSO 補佐 尾崎 真人

Q. 当期利益 800 億円の業績予想に対し、1Q 実績は 133 億円と進捗率 17%だった。本部別に、どのように評価しているか教えて欲しい。

A. 全体的には、思った以上に良くなかったとのイメージ。まず金属・グロロジは予想よりも悪かったが、特にグロロジの営業利益が赤字となったのは想定外だった。自動車・アフリカについて、4月は南アフリカ・インドでの自動車販売がほぼゼロだった。ただロックダウンも終わり、6月にはかなり業績が戻り、結果、想定よりも回復した印象。機エネ、化エレ、食料生活は想定よりも良かった。しかし、化エレの車載関係については想定よりも悪かった。

Q. 資料 P12「地域別の収益回復シナリオ」において、リスクとして見ておくべき地域、想定よりも早い回復が期待できる地域など、それぞれ教えて欲しい。

A. 北米と中国においてはシナリオから下回るリスクがあると思っている。但し、今回の当期利益予想 800 億円にはそうしたリスクも考慮した。北米と中国については、6-7月は良すぎたという印象であり、これから先、米中貿易摩擦、大統領選挙、コロナ第2波等を考えると 4Q で 100%回復するかどうかは不透明と考える。一方、インド、インドネシア、タイなどは良くないが、豪亜地域は保守的に見ている。一番怖いのはロックダウン。全ての事業がとまる一方、経費だけが発生すること。

Q. コロナで厳しい中、コスト削減などプロアクティブな取り組みがあれば、教えて欲しい。またコロナ後を見据えて現状打っている施策や今後のオポチュニティについて、社内で議論していることがあれば教えて欲しい。

A. 旅費交通費を 40 億円削減したり、広告宣伝費も止め、またディーラー関連では歩合での販売員を削るなど 経費については大なたを振るった。また今回のコロナを機に過剰なアセットの見直しも図り、スクラップ&ビルドも図っていく。今後のオポチュニティに関しては、働き方やモビリティの在り方等についても、より一層の議論を加速させている。トヨタグループの一員として、トヨタとのオポチュニティについてはしっかりと対応していきたい。またトヨタビジネス以外についても、今回、再生可能エネルギーやライフ&コミュニティといった事業が業績を下支えした部分もあり、この分野もしっかりと伸ばしていきたい。

Q. トヨタと他メイクの回復スピードが異なる中、トヨタの業績回復以上にビジネスを増やしていく考えはあるのか。

A. 強みがある会社に仕事が寄ってくる事実はあると認識しており、そこに対してはポジティブにとらえている。現在の状況で、この程度で済んでいるということは、他メイクが回復してくれば、当社のビジネスチャンスはさらに広がると思っている。

Q. アフリカは1Qで30億円の赤字であったが、2Q以降はどう考えているのか。

他の自動車販売はどうか？

A. アフリカの営業利益は社内管理会計上、4月は約▲20億円、5月は▲10億円、6月は+30億円。売上に関しては、4月で前期比5割減、5月で4割減、6月は2割減まで戻った。6月に業績が急激に戻った理由は、南アフリカのロックダウン解除によるものである。トヨタの業務移管やユニットランスの買収で南アフリカの重要性が高まっており、ここが稼働すると利益が出てくる。一方、アフリカ以外の自動車の販売は営業利益ベースで4月▲3億円、5月ゼロ、6月+10億円。売上は約4割減っているが極めて厳しく経費をコントロールすることで、営業利益を確保している。

Q. トヨタのシェアが相対的に上がり始めることで自動車事業が早い段階で回復すると考えてよいか？

A. 例えば中国でトヨタのシェアが上がると、当社は車を作ったり、売ったり、部品を日本から出したりしているため、そのメリットは何乗にも出てくる。ほかの国でも同様であり、確実に言えることは全世界でトヨタのシェアが伸びると当社の自動車事業は早く回復するとみている。

Q. 4-6月、6月以降のアフリカのロックダウンなどの状況を教えて欲しい。

A. 南アフリカのほか、アルジェリア、マダカスカル、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、ケニア、アイボリーコーストなどもコロナの影響を大きく受けていた。コンゴ、アイボリーコーストはビール事業など自動車以外で影響が出る。いずれにしても、南アフリカの影響が大きく、業績回復するにはこの地域がロックダウンにならないことが条件である。6月以降については、資料P12「地域別の収益回復シナリオ」にある2Qの65%は、すこし保守的であるが、6月は想定よりも良く、7月も悪くはない。

Q. 南アフリカは7月の状況が悪くなく、今後のロックダウンはないという想定だが、このまま、この状況が続くのか？

A. アメリカやブラジルなどのようにコロナ感染が爆発的に広がっているわけではなく、また重篤化率が高くないようである。今後、感染が広がらなければ、経済市場を開けたままにしておこうというのがポリティカルな動き。そうした意味でポジティブにみても良いのではないかと考える。

Q. 化エレの状況について教えて欲しい。資料P14を見ると1Qの進捗率は悪くなく、これから上振れすると見ていないのか？

A. エレクトロニクス事業は良くない。特に車載関係は需要も利益率も上がっていないし、在庫も減っていない。しかし、車載以外、例えば、メモリーやセキュリティ関係は、想定よりも良く、結果 前期比▲8億になった。化学品については想定よりも良かった。衛生関連についてはコンスタントに伸びていくが、石化製品は価格調整金でプラスの影響もあったため、2Qは1Qほどは期待出来ない。エレクトロニクス事業が改善すれば、全体として上振れも期待できる。

- Q. 機エネについて好調なようだが、各事業毎の1Q実績について教えて欲しい。
- A. 機械の設備関係は良くない。1Qは工場が動いていないため、設備まわり、修繕関係等の予算が相当削られている。電力関係では、再生可能エネルギーは業績が良かったが日本や特定の地域に限定、アメリカのガス焼き発電は前期対比マイナスであった。
- Q. 今期の機エネ本部の当期利益計画200億円のうち、ユーラスでどのくらいで見ているのか。
- A. 再生可能エネルギー事業にて約4割程度を予定している。

以上